

「観仏が成仏の因」と読めるところ
 (65頁) 悟りにいたるうえでたいせつなことは無常を観じるということ

新しい「領解文」 南無阿弥陀仏	石上智康『増補版 生きて死ぬ力』2008年中央公論新社○は頁 (177) これすなわち「南無阿弥陀仏」 いつでもどこでも誰にでも
「われにまかせよ そのまま救う」 の 弥陀のよび声	「我に任せよ そのまま救う」の 弥陀の よび声 まねき よびかけたもう おおせなり (46) いつでもどこにでも無常の風が吹いている 証を必要としな いこの世の事実 (83) 無常 縁起 空であることにながされよび覚まされ (189) ただ真実があるだけ 真実に摂め取られてすてられず この「摂取不捨」が救いの言葉 縁起 空なる境地からの救いの言 葉 真実からの救いの仰せ
私の煩惱と仏のさ とりは 本来一つ ゆえ	(72) 執われが 悲しみや 喜びなどが まぎれ込む 余地はない 得るものがない 失うものもない 天も地も水も 人も 生きとし生けるもの みな等しく 縁起して いる 変化している 無常 縁起 空 このことわりの中に 在る (53頁) 在るがままにすべてが障りなく一つになっていて自他の対 立もない (60) 在るがままのそのままが本来の裸のまま頭わになっている (83) いっさいの静止的な認識執われから解き放たれて自由になれ る時日常の身も心も脱落し私という構えもすっぽり抜け落ちて 在るがままにすべてが一つになっていて寸分の対立もなく活き活き と光り輝き満ち満ちている 自分と他者という対立 優劣 美醜 有るとか無いという世俗の分 別苦から解き放たれて
「そのまま	(88) 余計な分別や執われを加えない いっさい入る余地はない (91) すべての存在すべての現象が縁起空と悟られていくところに 執われの心が悲しみや喜びなどがまぎれ込む余地はない (93) 昔からの言葉でいえば「生死即涅槃」生き死にしているこの 無常の世界がすなわちそのまま仏さまの悟りの境地
救う」 が 弥陀のよび声	(61) ただ自然に笑むばかり (85) おのずからなる み手の うち (88) その時迷いを離れ安楽に入る (90) こともの すべて 縁起 空であると悟り安楽に成る (91) ただ偉大なる真実があるだけ それはここ それはいま (114) まるまるこの世の真相真実のひとりばたらき「真実は阿弥陀 如来の御こころなり」(親鸞聖人)
ありがとう とい	(103) 生きていくそのままが生かされている私

<p>ただいて</p>	<p>生かされるいのちの不思議に「ありがとう」 (104) この命は私のものでありながら私を超えている 「自然」のなかのあずかりもの (189) ただ真実があるだけ 真実に摂め取られてすてられず この「摂取不捨」が救いの言葉 縁起 空なる境地からの救いの言葉 葉 真実からの救いの仰せ ただありがたくいただくばかり ただ 計らいなくお任せするばかり</p>
<p>この愚身を まかす このままで</p>	<p>(176) 縁起 空 自然なるいのちの帰するところ 「そのまま救う」のおおせのままに この愚身を任す このまんま (47) それなのに変化にさからい不変と思ひ誤りその時どきのすがたに執われて嘆き悲しんだり喜んだりしてしまうこの私 (178) 「南無」はNAMMO(なむ)でおおせに任す 「そのまま救う」のおおせひとすじに この愚身を任す このまんま (107) 「自然」の世界に「お任せ」 生死の一大事は阿弥陀(仏)さまに「お任せ」</p>
<p>救い取られる</p>	<p>(118) 今このハイと「任す」瞬間にいのちが「定まる」 縁起 空 自然なる 障りのない いのちをいただく身に定まる 往生成仏「定まるなり」 (172) 疑いなく任す人を愚痴のまま救い取ってすてない仏さま (188) このままでこの世の苦海をこえて往生く 死にさまのよし悪しなども問題でない 縁起 空 自然であることをさまたげる執われや悪などなにもない (175) 「救う主体も空 救われるものも空 救われて到達する境地も空」(中村元) 空とは縁起しているということ こと 物 すべて縁起している 真実に 摂め取られて 捨てられず</p>
<p>自然の浄土</p>	<p>(196) 縁起するまま まるまる「自然」にかえる このまんま この世の縁がつきる時 迎え取られる「自然の浄土」(親鸞聖人) (105) 縁起しているから空だから固定したかたちはなにもない 縁起 空 自然 「自然はすなわちこれ弥陀仏の国なり」(教行信証) 縁起するまま おのずからそうなる世界 (108) 任せられなくても いやだいやだといくら抵抗してみても そうなる時にはそのようになる この世の縁がつきる時 私の思いや計らいを超え 縁起するまま まるまる「自然」にかえる だから気をつけて精一杯生きてオ・マ・カ・セ 迎え取られる「自然の浄土」</p>

<p>仏恩報謝の お念 仏</p>	<p>(121) この世の縁が尽きる時 世俗の分別苦から解放たれて 執われもなく何もなく縁起するまま まるまる「自然」にかえる (189) ただ真実があるだけ 真実に摂め取られてすてられず この「摂取不捨」が救いの言葉 縁起 空なる境地からの救いの言 葉 真実からの救いの仰せ ただありがたくいたたくばかり ただ 計らいなくお任せするばかり 「これまでにげてみたけれど このたび摂取不捨といけどられ」(小 川仲造) ありがたい仏恩報謝のお念仏 ナンマンダブツ ナンマンダブツ</p>
<p>これもひとえに 宗祖親鸞聖人と 法灯を伝承された 歴代宗主の 尊いお導きに よ るものです</p>	<p>(98) 縁起空ゆえに求めてもえられるものはない この不可得とい う道理こそ仏たちの依りどころ 人間の生きる依るべ (140) 縁起 空 自然のことわりの中 無常という一つの真実に中 にすべて在るのだから 少しでも仏さまの真似ごとをさせていただ く い</p>
<p>み教えを依りどこ ろに生きる者とな り</p>	<p>(142) 一日に一度は自分のものを他人に与え「私が誰々に与えた何 々をした」という執着心を残さず 自慢しない みかえりも求めな い</p>
<p>少しづつ 執われ の心を 離れます</p>	<p>(101) 今日もまた米や野菜パンや肉魚に恵まれ 食事がとどのい無 事食べられる 水も喉を通ってくださる そのお陰で今このように 生きている いのち在らしめられている</p>
<p>生かされているこ とに 感謝して</p>	<p>(102) 「私の思いで心臓を動かし 私が計算して呼吸をしていたら 夜ねるひまもない みな おのずからそうさせるはたらき」(林寺 脩)</p>
<p>むさぼり いかり に 流されず</p>	<p>生きていくそのまが生かされている私 生かされるいのちの不思議に「ありがとう」 (143) 底なしの我欲はほどほどに 一日に一度は止まらない食りの 心を恥じて足るを知り 心さびしからず</p>
<p>穏やかな顔と 優 しい言葉</p>	<p>(146) 言葉やふるまいでも他人を傷つけることがあるから注意する 「和顔愛語」(無量寿経・卷上) 穏やかな顔と 優しい言葉 (147) ともに無常縁起空の身でありながらかたくなに立場に固執し 争い殺し合う愚かさ これほど悲しい人間の闇はない</p>
<p>喜びも 悲しみも</p>	<p>(142) 一日に一度は他人の喜びをわが喜びとし 他人の悲しみ苦し</p>

<p>分かち合い</p> <p>日々に 精一杯 つとめます</p>	<p>みを見ずからの悲しみ苦しみとする</p> <p>(143) 体と手を動かし汗をかきあるいは頭を使ってものを創る直す ものをけつして粗末にしない日々の暮らし</p> <p>(192) 世界を住みやすくするための目標や生きがいをもち</p> <p>縁起 空という在るがままの真実に教え導かれ</p> <p>気をつけて精一杯生きて死んでいく 愚痴無智のこのまんま</p>
---------------------------------------	---